



2024年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年10月12日

上場会社名 松竹 株式会社

上場取引所 東 札 福

コード番号 9601

URL <https://www.shochiku.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高橋 敏弘

問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 (氏名) 尾崎 啓成

TEL 03-5550-1699

四半期報告書提出予定日 2023年10月12日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無：無

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年2月期第2四半期の連結業績（2023年3月1日～2023年8月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年2月期第2四半期	42,899	11.7	2,350	—	1,665	△34.9	3,315	△56.1
2023年2月期第2四半期	38,419	12.3	△168	—	2,560	—	7,554	—

(注) 包括利益 2024年2月期第2四半期 6,368百万円 (△18.7%) 2023年2月期第2四半期 7,837百万円 (—)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年2月期第2四半期	241.36	—
2023年2月期第2四半期	550.01	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年2月期第2四半期	190,255	92,477	48.6	6,723.34
2023年2月期	178,803	86,482	48.3	6,289.19

(参考) 自己資本 2024年2月期第2四半期 92,376百万円 2023年2月期 86,391百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年2月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2024年2月期	—	0.00	—	—	—
2024年2月期(予想)	—	—	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年2月期の連結業績予想（2023年3月1日～2024年2月29日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	87,730	12.2	1,300	—	130	△90.4	1,870	△65.9	136.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年2月期2Q	13,937,857株	2023年2月期	13,937,857株
② 期末自己株式数	2024年2月期2Q	198,127株	2023年2月期	201,406株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年2月期2Q	13,737,842株	2023年2月期2Q	13,734,767株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(追加情報)	10
(四半期連結損益計算書関係)	10
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症による制限の緩和に伴い、個人消費やインバウンド需要の持ち直し等の動きが見られたものの、資源価格の高騰や、物価上昇の影響等により、依然として先行き不透明な状況が続きました。

このような状況下、当企業グループはより一層の効率化を図るとともに、積極的な営業活動に努めて参りました。以上の結果、当第2四半期連結累計期間は、売上高42,899百万円(前年同期比11.7%増)、営業利益2,350百万円(前年同期は営業損失168百万円)、経常利益1,665百万円(前年同期比34.9%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,315百万円(前年同期比56.1%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(映像関連事業)

配給は、邦画5本、洋画2本、アニメ3本、シネマ歌舞伎、METライブビューイング、松竹ブロードウェイシネマと、多様な作品を公開しました。3月の「なのに、千輝くんが甘すぎる。」は興行収入10億円を超えるヒットとなり、洋画では4月の「パリタクシー」がヒットしました。また、4月の「滝沢歌舞伎ZERO FINAL 映画館生中継!!」は全国で売り切れが続出し、大ヒットとなりました。

興行は、邦画では「名探偵コナン 黒鉄の魚影」が興行収入100億円を超える大ヒットとなり、「君たちはどう生きるか」「キングダム 運命の炎」等も大ヒットしました。洋画では「ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー」「ミッション：インポッシブル/デッドレコニング PART ONE」が大ヒットとなりました。他方、2023年8月に発生した台風7号の浸水被害により一部の映画館が休館となりました。

テレビ制作は、地上波にて連続ドラマ「やわ男とカタ子」、2時間ドラマ「再雇用警察官5」、BS放送にてスペシャルドラマ「悪女について」、時代劇「無用庵隠居修行7」、連続ドラマ「めんつゆひとり飯」「雲霧仁左衛門6」を制作しました。

映像版權は、DVD・ブルーレイディスク販売にて「“それ”がいる森」「銀河英雄伝説Die Neue These 策謀」「シスター 夏のわかれ道」「ある男」「エンドロールのつづき」等の新作を発売し好調に推移しました。

配信は、定額制動画配信では「耳をすませば」を独占配信し、売上に大きく貢献しました。都度課金型動画配信では「ある男」「かがみの孤城」の2作品を独占先行配信し話題となりました。

CS放送事業等は、松竹ブロードキャスティング(株)が、昭和アイドル特集など特色ある番組を編成し、新規加入者数の向上に結びつきました。また、ケーブルテレビ局の新規採用が決定するなど、有料放送市場におけるシェア拡大に努めました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は24,121百万円(前年同期比16.1%増)、セグメント利益は2,237百万円(前年同期はセグメント損失261百万円)となりました。

(演劇事業)

歌舞伎座は、歌舞伎座新開場十周年を冠した公演を上演し、4月の「鳳凰祭四月大歌舞伎」が盛況を博しました。4月以降は2部制公演となり、6月から一幕見席の販売も再開する等、コロナ禍以前の公演形態に戻すことができました。

新橋演舞場は、3月の「ルーザーヴィル」、4月の「滝沢歌舞伎ZERO FINAL」、7月の新作歌舞伎「刀剣乱舞 月刀剣縁桐(つきのつるぎえにしのは)」等が好成績を収めました。6月の熱海五郎一座公演と8月の「ビートルジュース」は一部公演中止となりましたが、大変好評を博しました。

大阪松竹座は、3月の「東西ジャニーズJr. Spring Paradise」、4月の「ルーザーヴィル」「垣根の魔女」、5月の「少年忍者『俺たちのBANG!!!～大劇場を占拠せよ～』」等が好成績を収めました。8月の「One ANOTHER」は一部公演中止となりましたが収益を確保しました。

南座は、3月に「三月花形歌舞伎」、4月に「若き日の親鸞」、6月に「星降る夜に出掛けよう」、8月に「坂東玉三郎特別公演」を上演し、収益に貢献しました。

その他の公演は、3月のサンシャイン劇場での「歌うシャイロック」が好評を博し、6月の三越劇場では新派百三十五年記念「三婆」が高収益を確保しました。

巡業は、4年振りに公文協歌舞伎巡業が再開し、全国21会場を公文協東コースとして廻り、好評を博しました。

シネマ歌舞伎では、4月からシネマ歌舞伎「月イチ歌舞伎2023」がスタートしました。METライブビューイングは、2022-23シーズンの後半7作品を順次7月まで上映しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は11,493百万円(前年同期比14.8%増)、セグメント損失は722百万円(前年同期はセグメント損失1,331百万円)となりました。

(不動産事業)

不動産賃貸では、入居テナントとの綿密なコミュニケーションと良好な関係構築に努めることで、主要物件の高稼働により安定収益を確保し、概ね計画通りの収益に貢献しました。また、中長期戦略である東銀座エリアマネジメント活動における一般社団法人とまちづくり推進協議会は1周年を迎え、コロナ禍の収束状況を見極めて街の賑わい創

出イベントを開催するなど、地域貢献及びエリアの価値向上のための取り組みを強化しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は6,245百万円（前年同期比0.8%減）、セグメント利益は2,760百万円（同8.6%減）となりました。

（その他）

プログラム・キャラクター商品は、「なのに、千輝くんが甘すぎる。」「東京リベンジャーズ」シリーズ等の作品を中心に収益に貢献しました。

イベント・オンライン配信は、4月に幕張メッセにて超歌舞伎2023「御伽草紙戀姿絵」を開催し、同時生配信視聴数は過去最高となりました。ホラーコンテンツ「松竹お化け屋本舗」シリーズは、5月に宿泊型ホラー「インフェルノロッジ」を岐阜県のキャンプ場で開催、7月からは宮崎県、8月は愛知県にてホラーイベントを開催し人気を博しました。アニメ作品「ARIA」シリーズによる初のオーケストラコンサート「ARIA The SINFONIA」は、本公演に加えて3面スクリーンでのライブビューイング及び配信も実施し盛況となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,039百万円（前年同期比22.0%減）、セグメント損失は346百万円（前年同期はセグメント損失158百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ11,452百万円増加し、190,255百万円となりました。これは主に現金及び預金及び、投資有価証券の増加等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ5,456百万円増加し、97,777百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金及び、借入金の増加等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ5,995百万円増加し、92,477百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益及びその他有価証券評価差額金の増加等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年2月期の連結業績予想につきましては、当第2四半期連結累計期間の業績及び今後の見通しを検討した結果、2023年4月14日付「2023年2月期 決算短信」にて発表いたしました連結業績予想を変更しております。詳細は、本日発表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,113	22,868
受取手形、売掛金及び契約資産	7,469	7,745
商品及び製品	1,701	1,656
仕掛品	3,953	4,587
原材料及び貯蔵品	117	115
その他	2,420	4,296
貸倒引当金	△2	△4
流動資産合計	31,772	41,264
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	39,836	38,848
設備（純額）	9,712	9,321
土地	39,688	39,688
その他（純額）	3,799	3,682
有形固定資産合計	93,036	91,540
無形固定資産		
その他	1,914	1,907
無形固定資産合計	1,914	1,907
投資その他の資産		
投資有価証券	33,467	37,034
退職給付に係る資産	159	241
その他	18,539	18,374
貸倒引当金	△86	△107
投資その他の資産合計	52,079	55,542
固定資産合計	147,030	148,990
資産合計	178,803	190,255

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,116	8,232
短期借入金	4,871	4,971
1年内返済予定の長期借入金	17,404	19,754
未払法人税等	865	1,150
賞与引当金	527	421
その他	7,776	8,213
流動負債合計	37,561	42,743
固定負債		
長期借入金	33,887	32,719
役員退職慰労引当金	212	224
退職給付に係る負債	1,767	1,831
資産除去債務	1,512	1,526
その他	17,380	18,731
固定負債合計	54,759	55,033
負債合計	92,320	97,777
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,018	33,018
資本剰余金	30,157	30,174
利益剰余金	13,576	16,478
自己株式	△1,464	△1,440
株主資本合計	75,288	78,231
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,426	14,440
為替換算調整勘定	△63	△63
退職給付に係る調整累計額	△259	△230
その他の包括利益累計額合計	11,102	14,145
非支配株主持分	91	100
純資産合計	86,482	92,477
負債純資産合計	178,803	190,255

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)
売上高	38,419	42,899
売上原価	22,997	24,620
売上総利益	15,422	18,279
販売費及び一般管理費	15,590	15,928
営業利益又は営業損失(△)	△168	2,350
営業外収益		
受取利息	5	5
受取配当金	365	356
雇用調整助成金	53	5
協力金収入	186	—
補助金収入	2,570	72
その他	268	82
営業外収益合計	3,450	522
営業外費用		
支払利息	287	259
借入手数料	74	133
持分法による投資損失	266	743
その他	93	71
営業外費用合計	721	1,207
経常利益	2,560	1,665
特別利益		
固定資産売却益	※3 6,985	—
持分変動利益	※4 321	—
資産除去債務戻入益	15	—
投資有価証券売却益	—	※5 2,884
事業譲渡益	—	※6 200
特別利益合計	7,322	3,084
特別損失		
固定資産除却損	6	8
災害による損失	※1 52	※1 226
公演中止損失	※2 205	—
減損損失	—	46
違約金	—	29
特別損失合計	264	310
税金等調整前四半期純利益	9,618	4,438
法人税、住民税及び事業税	818	933
法人税等調整額	1,575	179
法人税等合計	2,393	1,113
四半期純利益	7,224	3,325
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△330	9
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,554	3,315

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)
四半期純利益	7,224	3,325
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	618	3,011
退職給付に係る調整額	△4	29
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	2
その他の包括利益合計	613	3,042
四半期包括利益	7,837	6,368
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,167	6,358
非支配株主に係る四半期包括利益	△330	9

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	9,618	4,438
減価償却費	2,616	2,305
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△92	△105
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△686	12
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	55	△81
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	21	63
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△12	22
受取利息及び受取配当金	△367	△361
支払利息	287	259
持分法による投資損益 (△は益)	266	743
固定資産売却益	△6,985	—
固定資産除却損	6	8
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△2,884
資産除去債務戻入益	△15	—
持分変動損益 (△は益)	△321	—
減損損失	—	46
事業譲渡損益 (△は益)	—	△200
違約金	—	29
災害による損失	52	226
公演中止損失	205	—
売上債権の増減額 (△は増加)	548	△275
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△550	△585
仕入債務の増減額 (△は減少)	360	2,115
その他	△978	689
小計	4,028	6,467
利息及び配当金の受取額	479	416
利息の支払額	△321	△255
災害による損失の支払額	△46	—
公演中止による支出	△200	—
法人税等の支払額	△370	△740
法人税等の還付額	300	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,870	5,887
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△100	△100
定期預金の払戻による収入	260	100
有形固定資産の取得による支出	△619	△559
有形固定資産の売却による収入	10,406	—
無形固定資産の取得による支出	△132	△93
投資有価証券の取得による支出	△0	△31
投資有価証券の売却による収入	—	4,179
関係会社株式の取得による支出	△18	△1,400
貸付けによる支出	—	△2,000
貸付金の回収による収入	40	26
事業譲渡による収入	—	200
その他	△30	△17
投資活動によるキャッシュ・フロー	9,807	303

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	—	3,000
長期借入金の返済による支出	△12,126	△1,717
非支配株主からの払込みによる収入	1,800	—
リース債務の返済による支出	△406	△274
割賦債務の返済による支出	△22	△21
自己株式の取得による支出	△7	△11
自己株式の売却による収入	0	1
配当金の支払額	—	△413
財務活動によるキャッシュ・フロー	△10,762	563
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,915	6,754
現金及び現金同等物の期首残高	16,531	16,013
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	6	—
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△2,784	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	16,668	22,768

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

（時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用）

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

（追加情報）

（台風7号による被害の発生）

2023年8月に発生した台風7号の影響により、株式会社松竹マルチプレックスシアターズが運営する一部劇場において浸水被害が発生しました。これによる原状復旧費用として特別損失にて「災害による損失」226百万円を計上しております。なお、現時点において、合理的に算定することが困難な費用等につきましては、「災害による損失」には含めていないため、当該計上額は今後変動する可能性があります。また、これらの被害に対する保険金等による補填金額は現時点で確定していないため、計上しておりません。

（四半期連結損益計算書関係）

※1. 災害による損失

前第2四半期連結累計期間（自 2022年3月1日 至 2022年8月31日）

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間（自 2023年3月1日 至 2023年8月31日）

（追加情報）に記載のとおり、2023年8月に発生した台風7号の影響により連結子会社である株式会社松竹マルチプレックスシアターズが運営する一部劇場において浸水被害が発生しました。これによる原状復旧費用として特別損失に計上しております。

※2. 公演中止損失

前第2四半期連結累計期間（自 2022年3月1日 至 2022年8月31日）

舞台関係者の新型コロナウイルス感染者の急増により、代役による公演継続等代替的な対応をとることができず、一部の公演を中止せざるを得ない状況となりました。このため当該公演にかかる製作費・人件費・地代家賃等を公演中止損失として特別損失に計上しております。

当第2四半期連結累計期間（自 2023年3月1日 至 2023年8月31日）

該当事項はありません。

※3. 固定資産売却益

前第2四半期連結累計期間（自 2022年3月1日 至 2022年8月31日）

建物及び構築物、設備及び土地等の売却によるものであります。

当第2四半期連結累計期間（自 2023年3月1日 至 2023年8月31日）

該当事項はありません。

※4. 持分変動利益

前第2四半期連結累計期間（自 2022年3月1日 至 2022年8月31日）

持分変動利益は、連結子会社であったBS松竹東急株式会社の第三者割当増資に伴い、当企業グループの持分比率が低下したことによるものであります。

当第2四半期連結累計期間（自 2023年3月1日 至 2023年8月31日）

該当事項はありません。

※5. 投資有価証券売却益

前第2四半期連結累計期間（自 2022年3月1日 至 2022年8月31日）

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間（自 2023年3月1日 至 2023年8月31日）

当社が保有する投資有価証券のうち国内上場株式1銘柄を売却したことによるものであります。

※6. 事業譲渡益

前第2四半期連結累計期間（自 2022年3月1日 至 2022年8月31日）

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間（自 2023年3月1日 至 2023年8月31日）

2023年4月1日に、連結子会社である株式会社松竹サービスネットワークが、保険代理店事業を株式会社トータル保険サービスに事業譲渡したことによるものであります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2022年3月1日至2022年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	20,778	10,015	6,293	1,331	38,419	—	38,419
セグメント間の内部売上高又は振替高	70	105	997	77	1,250	△1,250	—
計	20,848	10,120	7,291	1,409	39,670	△1,250	38,419
セグメント利益又は損失(△)	△261	△1,331	3,019	△158	1,267	△1,436	△168

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、イベントの企画、新規事業開発等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,436百万円には、セグメント間取引消去0百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,436百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2023年3月1日至2023年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	24,121	11,493	6,245	1,039	42,899	—	42,899
セグメント間の内部売上高又は振替高	60	85	971	59	1,176	△1,176	—
計	24,181	11,578	7,217	1,098	44,076	△1,176	42,899
セグメント利益又は損失(△)	2,237	△722	2,760	△346	3,929	△1,578	2,350

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、配信コンテンツの企画・制作、新規事業開発等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,578百万円には、セグメント間取引消去3百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,581百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

演劇事業において、連結子会社が保有している固定資産のうち、その収益性が低下しているものについて、回収可能価額を零として、帳簿価額の全額を減損損失として計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結会計期間においては46百万円であります。